



第37回 原発問題は単に原発の問題ではない

びさいフェスティバルの最後に話したかったことを再説しておきます。子どもたちが発電方法とその電源に関わる劇をした。タービンを回すと電気が起きる。じゃ、何でタービンを回すのか。発電所を見学し、子どもたち自ら考え、対話をして劇へとたどり着き、自らが使いたい電源に関して意見をもった。

原発は小さな小さなウランから爆発的なエネルギーを獲得できる技術である。いかなる発電所にもまかなうことのできない莫大な量を発電するというのが原発の利点であり、資源のないと言われる日本にとっては「夢のような」技術である。ドラえもんが象徴するように、科学技術が進めば何でもできるようになり、夢は叶うようになり、生活はますますラクになる。そういう時代思潮とテクノロジー信仰が何十年も拡大し続けながらこの国を覆った。

しかし3・11の現実はその夢を吹き飛ばした。安全とか事故が起きないというのはデマだとわかり、原発が安いなんていうのもデマだとわかった。福島原発の賠償と廃炉の費用は20兆円と試算された。その莫大な費用を東京電力始め大手電力会社が担うのは当然としても、それを新エネルギー会社にも負わすという理屈、電気代として国民に払わせるという理屈がどう考えたら正当化されるのか、僕にはわからない。

技術としても完全とは程遠い技術であることは、災害時に制御できないことからわかるし、今も福島原発では海に放射能まみれの汚水が漏れ続けている。解決策が見出せないでいる。使用済み核燃料は原発使用時ほとんど増え、停止時の今も施設内のどこかで脆弱なプールに入れられ、危険な状態に置かれたままである。そして核のゴミの処分場は未だに決まっていない。「万年」単位で負の影響力を持つゴミである。人は万年というスケールで自分たちの生活や社会を考えることはできない。つまり無責任ということなのである。それなのに原発再稼働なんて、まだ夢の続きを見ようというのか。いい加減目を覚ましたらどうか。

こういう意見を言うこと「偏っている」と非難する人がよくいる。そういう人たちは、はっきり物を言わないことに偏っている。ものを言わないことが中立であると誤解している。(屁屁ながら私は政治的にはずっと無党派である。)

はっきり物を言わないことで曖昧なままに済ませ、無責任なままで居つ



燃料ペレットの実物大模型。
このウラン1つで1家庭の
9か月分の電気がまかなえる

け、物事の決定を先送りする。そんな事なかれ主義が蔓延しているのが、我々の社会の現状。いい加減それをやめようとしている教育界は、幼児教育においてさえも、ものの「見方・考え方」・「対話」を強調している。

自分の意見を言うには考えなければならぬ。考えることで意思がはっきりし、態度を表明することで他者に対して責任が生じる。意思表示は「意見の押し付け」でなく対話の始まりである。

また、「いろんな考え方があろう」とよく言われるが、それは、人を尊重するように見えて、実は議論を封じる宣言のようでもある。いろんな考えがあるなら、それぞれの考えの人に聞きたい。放射性廃棄物に対する大いなる無責任をどう正当化できるか。

人類の数万年の歴史の中で、この四十年ほどの人、しかもごく限られた地域に住んでいる人のみが、万年規模のゴミを出す生活をした。こういう大いなる無責任を犯している人は、人類史のなかでもごくごくわずかな人間なのだ。まだ続けるのか。こんなことが誰によって、何によって許されるのか。

これまでは原発反対を言う時に、むなしさを禁じえなかった。原発推進の会社を作った、電源不明の電気を買う他なかった。「仕方ない」と言い訳できた。しかしこの四月からやっと電力会社を選べるようになり、再生可能エネルギー由来の電気を選んで買えるようになった。これでやっと子ども達に責任を果たすための一歩が踏み出せる。自分が見ることのできない廃炉への一歩を踏み出すことができるようになった。だって「消費は投票だ!」。なので、わざわざ「反対」と言わなくても、消費行動で原発反対を示したことになる。逆に、今までのままの電力会社から買っていれば、気持ちの上ではいくら原発反対と思っても、行為の上では原発推進となる。

鳥取県西部には地元で発電した電気を売る会社がある(今のところ)「ローカルエナジー」。そこから買えば「エネルギーの地産地消」を支持し、地域の自立を支援することになる。境港がエネルギー自給の街を売りにすることも夢ではない。子ども達と見学した素晴らしい「日新バイオマス発電所」(境港市西工業団地)は一般家庭一万二千戸の電気をまかなえる。境港の世帯は一万五千戸でしかない。あとは市民の民意が行政を後を押しをすれば実現可能だ。もはや「仕方ない」ところか、なんと素晴らしい近未来じゃないか!

電気が起る謎を解くように、食い入るように見つける園児たち。

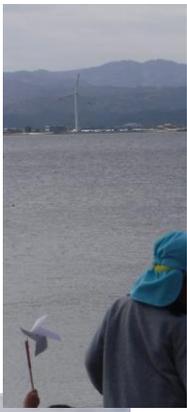


発見したことは？
回ると電気がつく！

タービン1号、2号、3号



すみれ組
エネルギーの旅



表情のある風の表現



大波小波
ざんばらこ。
ほんと大波
です。



火の力



チップを燃やして湯を沸かす



大きな鍋で湯を沸かす



発電アトム



「分裂！」



原子力館見学の
後ある園児いわく、「発電アトム
ってウランのこ
となの？」

「連鎖反応！」



松江原子力館では燃料の
ウランや燃料棒、原子炉
などの模型を見学。

この子たちが近い将来、
何を選ぶのだろうか



コンパクトで充実した
施設「**日新バイオマス発
電所**」。配管の一つ一
つまで把握してない技術
は考えられないとのこ
と。さて、原発でも技術
者はそんな風に胸を張
って言えるのかどうか。

